

【石田頼房氏】履歴・研究歴等【年表】

1 : <2>・<4>の欧文論文+<3A>(*を除く)+<9B>

年令 (4月1日)	履歴等	住居	学会	主要出版	自選25+ 「12」	研究論文 「2」	一般論文等 「4」	欧文論文等	海外旅行	石田 区分
1932 0	誕生(2/7)	①国分寺村		論文等総数→	30	50	200	26	(23)	第4期 都市計画制度確立期
1933 1		②吉祥寺								
1934 2										
1935 3										
1936 4										
1937 5										
1938 6										
1940 8										
1941 9										第5期 戦時下都市計画期
1942 10										
1943 11										
1944 12										
1945 13	敗戦									
1946 14										
1947 15				卒論「公営住宅における用地取得問題について」						
1948 16				卒計「住区計画」						
1949 17				修論「地方都市とその周辺地域に関する研究」						
1950 18	横国大入学			博論「大都市周辺地域における散落状市街化の規制手法に関する研究」						
1951 19	東大入学		□学会設立							第6期 基本法不在・都市開発期
1952 20										
1953 21										
1954 22										
1955 23	東大卒			卒論・卒計						
1956 24			□会員							
1957 25	修士終了		○会員	修論	①	●●	●			
1958 26						●				
1959 27						●				
1960 28	都立大助手	③④大船(結婚)					▲			
1961 29	工博	⑤横須賀		博論	②	●●	●▲			第7期 新基本法期
1962 30		⑥吉祥寺		■石川奨励賞			▲▲▲▲			
1963 31							▲▲▲▲			
1964 32		⑦目黒⑧辻堂					▲			
1965 33				■設計計画賞(八郎湯)			▲▲▲			
1966 34							■			
1967 35	助教授	⑨青葉台			③		●▲▲			
1968 36				(革新自治体の時代)	④		▲▲▲●●			
1969 37							▲▲▲▲▲			
1970 38				「都市計画史」担当<9C-135>p.65			▲			
1971 39					⑤		▲▲▲▲▲▲▲▲			第8期 反計画・バブル経済期
1972 40							▲▲▲▲▲▲▲▲			
1973 41					⑥⑦⑧		▲			
1974 42			□評議員				▲▲▲▲			
1975 43					⑨⑩⑪⑫		▲▲▲▲▲▲▲▲			
1976 44		⑩もえぎ野					▲▲▲▲			
1977 45	(兼)都市研究センター(新設)研究員兼任						▲▲▲▲			
1978 46				建設省都計中央審専門委			▲▲▲▲▲▲			
1979 47	初海外旅行						▲▲▲▲▲▲	①欧		
1980 48					⑬		●●●●●●			
1981 49							▲▲▲▲▲▲▲▲			第9期 住民主体・地方分権の都市計画に向けて
1982 50	初国際会議(中曽根民活)		△会員				▲▲▲▲			
1983 51			■論文賞		⑭⑮		▲▲▲▲			
1984 52	センター教授(建築学科より)						▲▲▲▲			
1985 53			□学術委員長				▲▲			
1986 54					⑯		▲▲			
1987 55				『日本近代都市計画の百年』『日本近代都市計画研究』			▲▲			
1988 56					⑰⑱⑲		▲			
1989 57			□副会長	(1989-91.PHG理事)			▲			
1990 58				『都市農業と土地利用計画』	⑳㉑		▲▲			
1991 59	センター所長		●論文賞		㉒		▲▲▲▲			
1992 60			△副会長	『未完の東京計画』	㉓		▲▲▲▲			
1993 61				「都市農村計画・計画の概念と」	㉔㉕		▲▲▲▲			
1994 62	(都市研究所)		△会長		㉖		▲▲▲▲			
1995 63	定年退職。工学院大特別専任教授			『2019年への都市計画史』			▲▲▲▲			
1996 64			△評議員		㉗		▲▲			
1997 65							▲			
1998 66			△顧問		㉘㉙㉚		▲▲			
1999 67	工学院大定年退職			『森鷗外の都市論とその時代』			▲			
2000 68							▲▲			
2001 69			□名誉会員	■功績賞			▲▲			
2002 70			△名誉会員				▲▲			
2003 71							▲			
2004 72			●大賞	『日本近代都市計画の展望』『展望と計画のための都市農村計画史研究』						
2005 73	首都大学東京*			「私の住み方の記」						
2006 74			○名誉会員							
2007 75										
2008 76										
2009 77	病気(5/7)		○入院							
2010 78										
2011 79										
2012 80										
2013 81										
2014 82										
2015 83	逝去(11/4)									

●国会参考人(4回)

□■都市計画学会
○●建築学会
△農村計画学会(Ass for Rural Planning)
*：都市研究所改組→都市環境科学研究所都市システム科学域

■都市計画学会
●建築学会
★総合都市研究
▲その他

1 : <2>・<4>の欧文論文+<3A>(*を除く)+<9B>

↑ : 「*」=IPHS(5回+東京); 「Y」=EAJS(5回)
IPHS (New Delhi)は論文提出・欠席

論文テーマ分析 <12>(①~③⑩)、<1A>([1]~[13])

	農村・農地 農村計画	乱開発 制御論	建築線・ 区画整理	土地利用 規制計画	地区計画	ハブル・民活 規制緩和	都市圏 東京圏	都市計画 史	日本 都市計画	計画論	海外 都市計画	住民参加 ・自治体	森鷗外	その他 (「」は石田による)
1956														
1957	①	①	①											①「本格的論文」
1958														
1959														
1960	[1]	[1]												
1961	②	②		②										②「学位論文の自抄」
1962														
1963														
1964														
1965														
1966														
1967	③	③					③							
1968				④			④	④			④			④石田は非都市計画史と認識
1969														
1970														
1971												⑤		
1972														
1973				⑥⑧			⑥					⑥⑧		⑦都市情報
1974														
1975					⑩		⑫					⑩		⑨団地管理⑩コミュニティ
1976														
1977														
1978														
1979														
1980							⑬	⑬						⑬「最初の都市計画史論文」
1981														
1982										中管根民活				
1983			⑮	⑭	⑭	⑭					⑮			
1984														
1985														
1986	[3]		⑯					⑰		<4-135><4-185>				
1987								[4][5]	[4][5]	<4-127>				[4]百年
1988				⑰		⑰	[6]	[6][7]⑱	⑰⑱		⑱		⑱	
1989														
1990	[9]			[8][9]				[8]⑳		バブル	㉑			㉑開発利益
1991								㉒	㉒					
1992							[10]	[10]			㉓	㉓		
1993				㉔				㉔	㉔㉕	<2-41>				㉔計画概念
1994				㉕				㉕	㉕		[11]	[11]		
1995								[12]	[12]					[12]2019年←自省研究
1996											㉗			
1997														
1998	㉘		㉙	㉙					㉚		㉘㉚			
1999													[13]	
2000														

2004

南風堂

<13>

←自省研究